



いちいの会 だより

令和2年
53号

ICHIINOKAI VOL. 53

発行/社会福祉法人 いちいの会 <http://www.ichiinokai.com>



芝 桜

ご挨拶

社会福祉法人いちいの会 理事長 児嶋 政明

皆さま、こんにちは。

4月から新年度になりましたが、春爛漫の中で、新型コロナウイルスが蔓延し緊急事態宣言が発出されています。皆さまには種々ご心労ご苦勞の多いことと存じ、心よりお見舞い申し上げます。

昨年度は、くすのき苑、ワークショップ、グループホーム、のだネット、相談支援センターの5つの事業所は、ともに順調に運営を続けることができました。

そして、利用者にとっての快適な利用環境と、職員が気持ちよく働ける職場環境の整備を進めました。具体的には、設備の新設・改修工事を行うとともに、処遇改善加算をもとに職員の基本給及び時間給を増額し、育児短時間勤務制度のより柔軟な運用を開始しました。

また、法人の理念を見直し、従来の「利用者第一の充実した支援サービス」と「地域福祉への貢献」に、「やりがいと研鑽そして笑顔の職場」を加えて、基本理念といたしました。

昨年秋に千葉県を襲った台風や豪雨による被害は幸い僅少でしたが、防災対策の検討を進めており、新年度には非常用発電機を設置することとしています。

新型コロナウイルスについては、何よりも感染防止が先決と考え、法人として策定した「新型コロナウイルス感染症対策」などを徹底して利用者職員を守ることにし、新年度も感染防止に取り組んでまいります。

新年度においても、5つの事業を継続するとともに、ガバナンスの強化と透明性の確保、人材の確保・育成、事業環境・職場環境の整備、地域社会に貢献する取組みなどを進めてまいります。

経済的には、人件費などの費用が高むことが見込まれ、法人の経営は楽ではありませんが、厳しい環境の中、慎重に舵を取ってまいります。

新年度も役員職員一同力を合わせて、基本理念にもとづき着実な努力を重ねていく所存ですので、皆さまには引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

●目次●

- ◇理事長挨拶 …………… 1
- ◇法人全大会
各事業所より …………… 2.3
- ◇職員苑内研修
職員日記 …………… 4
- ◇行事いろいろ …………… 5
- ◇新任職員紹介
1寮クラブパーティー
家族会ギャラリー
行事報告
編集後記 …………… 6



法人全大会

新年度に向けて

第二支援係長 伊藤 雅章

4月1日に法人全大会が開催されました。例年は全事業所が一堂に会し行っていましたが、今年度はコロナウィルスの影響もあり、各事業所ごとに集まり電話をつないで行われました。

話題の中心はやはりコロナウィルス一色。理事長、総合施設長からもこれからの対策、対応について多くの話が上がりました。自覚症状のない感染者が多く見られる今回の感染症は、どこに潜んでいるのか、いつまで続くのか…私たちもこれまでに経験したことのないような不安感に襲われています。それでも、利用者の皆さんは普段と変わらずいつも通りに生活されています。外出や自宅への帰省など若干の違和感はあるものの、作業などの活動は今まで通り行っています。安心した生活を守るためにも、「ウィルスを持ち込まない」対策に全力を尽くしていきたいと思います。

少し話は逸れますが、法人全大会が終わった後、現場の職員が集まって話し合いをしたいということで、ミニ会議をしました。昨年度から上がっていた「利用者の余暇活動」について、どう進めていくべきかを話し合っていました。こんな時だからこそ、利用者にとってどう過ごし、楽しんでもらうかを真剣に考えてくれた仲間たちを誇らしく感じました。昨年度から法人の理念として加わった「職員のやりがい」を形にし、利用者に還元できるようサポートしていきたいと思います。

くすのき苑

くすのき苑副施設長 戸辺 泰介

いつもいちいの会及びくすのき苑の運営にご協力いただき有難うございます。

この原稿を書いているのは新型コロナウイルス禍の3月後半、東京オリンピックの延期が決まり、首都及び各地での感染者数が連日増加の一途を辿っている最中です。

この広報誌が発行される頃には、状況が好転していることを期待しつつ、苑内での近況をお知らせします。

もともと冬はインフルエンザやノロウィルスなど、感染症が強い力を持つシーズンです。そのため、日々の検温や施設内の消毒など健康・衛生管理には、普段から力を入れていました。それに加えて、今回の新型コロナウイルス流行があり、対策として外部との接触に制限を設けています。

具体的には、利用者の皆さんについては、原則、施設外の方と接する可能性のある外出を控えていただいています。また、苑外からいらっしゃる方については、業務等で必須でない限り、施設内の生活空間への立入はご遠慮していただいています。

利用者の皆さんにとってはいつも楽しみにしている買物や行事への参加が難しくなってしまったこと、また、そのご家族にとっても、お子様と接するのが気軽に出来ないことについて、大変心苦しく感じているところです。

振り返れば、この数年、あらゆる災害が身近に感じられる機会が増しているように思います。非常時だからこそ、落ち着いて、法人、ご家族、地域で支えあって対応をしていきたいです。

ワークショップくすのき

ワークショップ副施設長 大谷 篤司

昨年度を振り返ると、台風被害や新型コロナウイルスの蔓延。さまざまな災難に見舞われました。

メディアやSNSでは様々な情報が発信され、トイレットペーパーが売り切れておにない。というニュースが流れていました。私達は、SNSで流れてくる、デマや人を傷つけるような投稿に惑わされてしまうことがあります。

「いいね!」の数で評価を決めたり、文脈を読まずに単語の上げ足をとり、ネット上の発信を批判したり、評論したり。便利なツールではあるものの、それを上手に使いこなすことができていない。それは皆が同じルールのもと使用していないからなのでしょう。

私たちの支援も、職員が目的や目標を共通認識していなければ、いい支援はできない。そして、「私ならこう考える」「私ならこうする」と同じ時間・空間の中で意見を交わさなければ、語弊が生まれてしまうこともある。

それぞれが共通した意識を持ち、お互いを認め合う。そういったことを大切にするチーム作りをしていきたいです。

グループホームがえで

生活支援係長 金 隆史

コロナウイルスの蔓延により、とても慌ただしい状況の中、新年度が始まりました。野田市でも先日感染が確認され、各種イベントの中止や、活動の縮小等により、利用者の生活にも影響があり、生活リズムの重要性を改めて感じています。

現在のグループホームの課題としては、利用者の状況の変化への対応、特に加齢による身体機能の低下の見える方に対して、適切なサービスの検討を進めなければなりません。

また、建物の老朽化への対応等、課題が山積している状況ではありますが、利用者のよりよい生活の実現を目指し、整えていきたいと思っております。

私自身、共同生活援助の担当となり2年目を迎えました。昨年度は、時間に追われることが多く、あっという間に1年が過ぎたように感じます。

職員、世話人共に異動や新規採用等により今年もバタバタとした年度の始まりとはなりましたが、グループホームの利用者、そしてそこで支援にあたる方々にとって、やりがいや生きがいを感じることでできる環境づくりを目指していきたいと思っております。

今年度も宜しくお願い致します。

中核地域生活支援センターのだネット

地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

新型コロナウイルスの影響で十分な準備が出来ないまま新年度を迎える方は多いのではないのでしょうか。不安な気持ちが蔓延する中、のだネットでは、少しでも安心して暮らせるための支援を続けてまいります。

野田市ではこの4月から「基幹相談支援センター」が第二の福祉ゾーンに開設されます。

基幹相談支援センターは身体障がい・知的障がい・精神障がいの方々のための地域の相談拠点として緊急・困難ケースへの対応や適切な事業所へ繋ぐなど、総合的な相談業務を行います。また、障害のある方が安心して相談できる地域の相談支援体制の強化として相談支援者の人材育成やスキルアップを手掛け環境整備が進められます。地域移行・地域定着支援も行われます。中核センターと重なる部分も多く、一緒に動いていく事でこれまで培ってきた「のだネット」の手法等を伝えて行ければと思います。

また、今年度は県内13か所の中核地域生活支援センターと柏市地域生活支援センター、船橋市の自立相談支援事業所と基幹相談支援センターを含めた連絡協議会の事務局をのだネットが担当します。普段の業務に加えて事務局の仕事で多忙になることが予想されますが、変わらず丁寧な支援を心がけてまいります。

相談支援センターいちいの木

相談支援専門員 中村 成彦

相談支援専門員の仕事は、在宅に住んでいる方や施設等に入所している方が、必要なサービスを受けられるよう、本人又は家族のニーズを聞き、そのニーズに合うサービスの提供をして、本人及び家族が落ち着いた生活が送れるような環境作りが出来るサービス等利用計画書を作成しています。

最近、野田市には障害福祉サービス事業所も増えてきて、サービスの種類にもよりますが、事業所を選べるようになってきています。ドアツードアの送迎サービスがある事業所もあり、今後、事業所のサービスにより利用者が選ばれる時代になると思います。

相談支援専門員として、一番の課題は、重度の方が入れる施設及びグループホームが無いことです。千葉県では入所施設は開設しない方針で、重度の方を受け入れてくれるグループホームも無い状況です。何処にも入れずに在宅生活を続けている方が多々いる状況です。両親も高齢になり、介助等が難しくなっている方が多くいます。親に何かあれば、短期入所を利用している間に、入れる施設及びグループホームを探しますが、現状、無い状況です。福祉業界では、何処も同じですが、人材不足の事業所が多いです。サービスを提供したくても、人材があらず提供出来ない事業所もあります。

今後の福祉業界の大きな課題として人材不足と介護者の高齢化の問題が大きくなっていくと思います。



苑内研修

主任生活支援員 内山 裕史

2月の会議時間を利用して、苑内研修を行いました。アインシュタインの言葉で「何かを学ぶためには、自分で体験する以上にいい方法はない」という名言があります。今回の研修内容は「チームビルディング」。体験、体感を通じてチーム作りを学び、頭を使い身体を動かす研修にしました。講義のように聴いているだけでは眠くなってしまうので、自分で考え、チームで考えチームとして競うことにしました。

最初に自己紹介から始めました。同じ職場内で顔も名前も知っているのに、「実は」というフレーズを全員に入れてもらいました。意外と知らない事が多く、実は「黒帯を持っています」など盛り上がりました。自分を知ってもらい(自己開示)相手を知ることが(相互理解)信頼関係に繋がります。何気ない会話の中にも信頼関係があれば会話が成立します。否定から入らずに「なるほど、そうなんです」等まずは「受け止める姿勢」が重要になります。次に『インプロ』を行いました。インプロとは即興で歌や演劇を行うことです。5人1組になり、出されたお題に対して即興で役を演じてもらいました。入学式というお題やパーベキュー、ラーメン屋、クリスマスといったように次から次へとお題を替えていきます。先生役や生徒役、ラーメン屋の定員やお客さん、それぞれ役割があり場面によって役割が変わります。仕事の中でも職員一人一人役割があるはずで、今回の研修を通じて、今自分が置かれている立ち位置や、周りから期待される役割を認識できたと思います。

くすのき苑では、研修に行った職員自らが講師になり他の職員に研修を行う手法を用いています。知り得た事や情報や頭の中で整理をして、他の職員に伝えます。教える立場としてもう一度勉強するので、人に教えることは自分の為になることを実感させられます。

今年度も様々な研修を通して知識を深めて、くすのき苑という一つのチームで邁進していきたいと思っています。



職員日記

生活支援員 藤川 旭朗



昨年秋 河口湖にて撮影

皆さんは写真を撮ることはどれくらいありますか？ 私の趣味は写真を撮ることです。きっかけは、成人祝いに欲しいものもなく、なんとなく買ってもらった一眼レフカメラ。最初は使い方もわからず部屋の飾り物。大好きな車のイベントに行ったとき、白煙を立てながら目の前をドリフトしていくスポーツカーをカメラで撮った。その一枚が私をカメラに夢中にさせました。

小さい頃から、撮られることが苦手で家族のアルバムにも、幼稚園や学校の卒業アルバムにもほとんど私の姿はありません。正直、今も撮られることは好きではありません。でも、撮る事は大好きで常にカメラを持ち歩くようになっていました。今使っている一眼レフカメラで3台目。同じカメラでもそれぞれ機種によって個性があって楽しいものです。私は風景を撮る事が好きです。紅葉の奥に見える富士山、水たまりに反射する東京駅、砂浜に残る犬と飼い主の足跡など。木に登ろうとしている猫のような身近なところにも意外と撮ったら楽しい事ってあるんです。カメラは唯一、時間を止めて残しておく事の出来るものです。

私の楽しみは撮った写真を印刷して、アルバムを作って見返すことです。その時のことを思い出したり、誰かと話したり。そんなことが出来るのも写真があるおかげ。それに、最近の写真になるほどに写真の腕が上達してるなあなんて自己満したり。大切な宝物です。

皆さんも自分だけのアルバムを作ってみてはいかがでしょうか。



クリスマス会

12月18日にクリスマス会をしました。皆さん楽しみにしていて、数日前から「メリークリスマス！」と話してくる利用者さんもありました。今年は食品加工班でケーキを作りました。皆さん「美味しい」と言って喜んで食べていました。

主任生活支援員 佐藤 由美



新年会

1年に1度のお寿司と天ぷら、ケーキを美味しく食べ、神社へのドライブや書初め、和服を着ておめかしをする。新年会を行った1月15日は利用者・職員の沢山の笑顔で溢れた特別な1日となりました。

生活支援員 片倉 美幸

豆まき



皆さんの所にも鬼は来ましたが？くすのき苑には邪悪で荒々しい鬼達が毎年の様にやってきますが、今年も皆で力を合わせて見事に退治。歳の数だけの豆を美味しく頬張りながら1年間の健康と幸せを祈りました。

主任生活支援員 山田 宗成



2月12日、冬真っ只中とは思えぬ暖かな日、清水公園に出掛けてきました。1年前にリニューアルしたエントランスの、おしゃれなカフェでお昼を食べ、ヤギやポニーにもお昼ご飯。ニジマスの塩焼きもおいしかったです。

主任生活支援員 秋山 直樹

近隣外出



いらっしゃいの会

4月より2寮に新しい職員がやってきました。利用者の皆さんはワクワクドキドキ！緊張のお出迎え。歓迎の拍手に包まれ、とても和やかな雰囲気になりました。これからどうぞよろしくお願いします！



新任職員紹介



生活支援員 高島 匡輝
 この度、くすのき苑に就職させていただいた高島匡輝です。
 未熟者で、分からないことが多いですが、皆さんのお役に立てるよう、精一杯努めて参ります。
 どうぞ宜しくお願い致します。

1寮クレープパーティー



年が明けた1月、クレープパーティーを行いました。クレープの生地を焼く人、バナナやミカン等のフルーツを準備する人、トッピングをする人。みんなで協力して作ったおかげで、おいしいクレープが出来上がりました。



家族会ギャラリー

家族会会長 鈴木良造



自画像

私事、幼少期は走ることが好きだったぐらいで趣味と言うものはほとんど無く定年退職後始めた油絵講座に参加して10数年経った。

今年の遊画会展は3月市役所1Fにて開催されることを楽しみにしていたが新型コロナウイルス拡大防止のため中止と成った。とても残念に思っていたところ『いちいの会だより』担当者から原稿依頼と油絵を紹介して頂けるメールが届いた。

今年描いた絵を発表出来る場を頂き嬉しい限りだ。



自然の恵み

くすのき苑 鈴木 啓太さんのお父様です。

行事報告

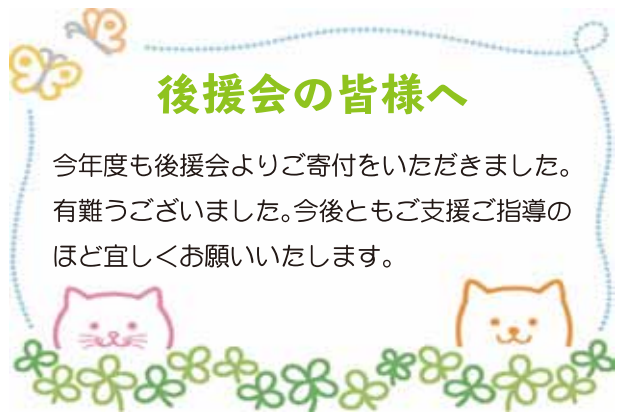
1月 冬季帰省 ～ 1/5
第3者報告会

2月 第3者報告会

3月 健康診断
理事会(電話会議)

後援会の皆様へ

今年度も後援会よりご寄付をいただきました。有難うございました。今後ともご支援ご指導のほど宜しくお願いいたします。



あとがき

時が経つのが早く、気付いたら3年目を迎えました。今年度は自分の考えをしっかり持ち、精一杯支援に取り組めるよう努力していきたい。(清宮)

友人がスポーツカーからハイブリットカーに乗り換えた。奥さんが出来たと。そして父になった。最近、周りは結婚ラッシュ。今年こそ、自分も…。(藤川)

いちいの会だより VOL.53

発行 社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑
〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121
TEL:04-7120-6667 FAX:04-7120-6668

発行人 総合施設長 清本 健二郎

編集 広報委員会 清宮・藤川

発行日 令和2年4月吉日

E-mail kusunokien@nifty.com

H P URL:http://www.ichiinokai.com/